



《プルーン・すもも》

◆コスカシバ対策の特別薬剤散布について

1. 散布時期：発芽前 3月初旬頃 散布日 月 日
2. 調 合 量：水99ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
ガットキラール剤	1ℓ	コスカシバ・キクイムシ類	休眠期

3. 散布量：10a当り150ℓ
4. 注意事項

- ①昨年、「落葉後」に散布を行った場合は今回の散布はできない。
- ②幹・主枝・亜主枝等の太枝及び枝の分岐部へ重点（したたり落ちるよう）散布する。
- ③散布する前に幹の稲ワラ・樹脂を取り除く。

◆カイガラムシ対策の特別薬剤散布について

1. 散布時期：3月初旬～上旬頃 散布日 月 日
2. 調 合 量：水97ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
スプレーオイル	3ℓ	カイガラムシ類	発芽前

3. 散布量：10a当り250ℓ

《あんず》

害虫の発生被害がある場合は下記の「カイガラムシ対策」・「コスカシバ対策」の内どちらかを選択して特別散布を実施する。両方の発生がある場合は1年ごと交代で散布する。

◆コスカシバ対策の特別薬剤散布について

1. 散布時期：発芽前 3月初旬頃 散布日 月 日
2. 調 合 量：水99ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
ガットキラール剤	1ℓ	コスカシバ・キクイムシ類	休眠期

3. 散布量：10a当り150ℓ
4. 注意事項

- ①昨年、「落葉後」に散布を行った場合は今回の散布はできない。
- ②幹・主枝・亜主枝等の太枝及び枝の分岐部へ重点（したたり落ちるよう）散布する。
- ③散布する前に幹の稲ワラ・樹脂を取り除く。

◆カイガラムシ対策の特別薬剤散布について

1. 散布時期：3月初旬まで 散布日 月 日
2. 調 合 量：水970当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
スプレーオイル	30	カイガラムシ類	発芽前

3. 散布量：10a当り2500
4. 注意事項

①スプレーオイルに代えて、ハーベストオイル50倍（水980当り20）を使用してもよい。

◆第1回薬剤散布について

1. 散布時期：3月中旬頃（発芽前） 散布日 月 日
2. 調 合 量：水900当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10mL	—	—
石灰硫黄合剤	100	越冬病害虫・ハダニ類・カイガラムシ類	発芽前

3. 散布量：10a当り=2500以上
4. 留意事項

①コスカシバ・カイガラムシ類対策の特別薬剤散布を実施した場合は、散布間隔を一週間以上空ける。

《オウトウ》

◆コスカシバ対策の特別薬剤散布について

1. 散布時期：発芽初旬（発芽前） 散布日 月 日
2. 調 合 量：水990当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10mL	—	—
ガットキラー乳剤	10	コスカシバ	休眠期

3. 散布量：10a当り1500
4. 注意事項

- ①昨年、「落葉後」に散布を行った場合は今回の散布はできない。
- ②幹・主枝・亜主枝等の太枝及び枝の分岐部へ重点（したたり落ちるよう）散布する。
- ③散布する前に幹の稲ワラ・樹脂を取り除く。

《う め》

◆コスカシバ対策の特別薬剤散布について

1. 散布時期：発芽前 3月初旬頃（発芽前） 散布日 月 日
2. 調 合 量：水990当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
ガットキラー乳剤	1ℓ	コスカシバ・キクイムシ類	休眠期

3. 散布量：10a当り1500
4. 注意事項
①幹・主枝・亜主枝等の太枝及び枝の分岐部へ重点（したたり落ちるよう）散布する。
②散布する前に幹の稲ワラ・樹脂を取り除く。

◆第1回薬剤散布について

1. 散布時期：3月上旬頃（発芽開花前） 散布日 月 日
2. 調 合 量：水900当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
石灰硫黄合剤	10ℓ	ハダニ類・カイガラムシ類	発芽前

3. 散布量：10a当り=3000以上
4. 留意事項
①開花してしまっている場合は、本薬剤散布を見送る。

《共通》

◆薬剤散布に係る共通事項について

1. できるだけ、温暖無風の日を選び丁寧に散布する。
春先は午前中でも風が強い。温暖無風で露のない時間を選び、枝先まで良く掛かるように手散布で実施する。
散布する前に、SSや動噴を一時間ほど陽に当てて、あたためておくとよい。
2. マシン油乳剤（スプレーオイル等）の二度がけは絶対に行わない。薬害防止。
3. 薬害（枝枯れ）対策として、低温時（朝・夕・一日低温等）には実施しない。
水分が凍り、マシン油乳剤の成分のみが残り、薬害につながる。
薬害が心配な場合は、マシン油乳剤30倍を50倍（水980当り20）に代えて使用する。
マシン油乳剤の散布時期を逸した場合は、本年は実施を見送る。
4. カイガラムシの多い園では散布前にブラシ等でこすり落としておき、（薬剤防除効果が上がる）手散布で枝・幹部にしっかりと散布する。
5. なし以外で、スプレーオイルを散布した場合は、石灰硫黄合剤までの散布間隔を7日以上空ける。
6. 凍害防止のためワラを巻いてある場合は、ワラの中の主幹部に掛るよう、たっぷりしみ込ませるよう散布する。
7. スプレーオイルに代えて、ハーベストオイル50倍（水980に20）を使用してもよい。
ただし濃度が低いので効果も低下する。
8. ガットキラー乳剤の散布前に主幹部の浮いた皮カス等を軍手で軽く落とす。
また、アメ（樹脂）等も取り除く。
9. ガットキラー乳剤は、「うめ」を除き、「落葉後」に散布を行った場合「発芽前」の散布はできない。
梅は休眠期に年2回まで散布できるが、プルーン・プラム・杏・オウトウは年1回の使用のみ
幹・主枝・亜主枝等の太枝及び枝の分岐部など目通りより下を重点的に散布する。
散布する前に幹の稲ワラ・樹脂を取り除く。
発芽前に（コスカシバの活動に合わせて）散布となる。気温が低い日が続いた場合は散布を遅らせる。

《栽培に関する問合せ》

寺澤（篠ノ井西部・信田）：080-1188-5229／外谷（篠ノ井東部）：080-8048-6602

松橋（松代）：090-4816-6297／佐藤（川中島）：090-7179-9866

根津（更北）080-1203-8576・松澤（若穂）080-1191-5166

吉澤（情報・編集担当・全域）：090-2543-0365／営農販売部（本所）：292-0930

○果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）

伊藤（篠ノ井東部）080-2239-6816／松坂（篠ノ井西部）080-1188-4131

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部／農業資材課：299-3311